



伸びよう阿曽っ子



11月品格目標：勇気

大成功 たら製鉄!

皆さんは、古墳時代後期に鉄づくりが行われた、日本で最も古い製鉄遺跡とされる千引カナクロ谷遺跡（鉄を溶かす炉と炭を焼く窯）が奥坂で見つかったことをご存じでしょうか。鉄をつくるためには、鉄鉱石や砂鉄を炭とともに炉に入れて溶かしますが、炭が燃えて高温になるように、炉にふいごを取り付け炉の中に空気を送っていたと考えられています。大量の炭を使用するため、製鉄遺跡は薪が手に入りやすい山の中につくり、薪にする木がなくなると、別の場所に移動していたようです。

子ども達に「ふるさと愛」育むために、地域学習に取り組んでいます。6年生では、総合的な学習の時間に地域の歴史について学んでおり、阿曽地域で古代から近世にかけて発展した製鉄法である「たら製鉄」を体験しました。1～5年生の子ども達や保護者・地域の方々の力もお借りし、21.5kgの砂鉄を溶かして3kgの鉄を取り出すことができました。6年生の子ども達は、古代吉備王国といわれた時代の阿曽地区の先人の営みに思いをはせるとともに保護者や地域の方々と交流しながら活動することにより、ふるさとのよさに触れ心が動かされたことだと思います。ご協力いただきました皆様方、誠にありがとうございました。





これができた鉄です。学校北棟入口に展示していますのでご覧ください。

学習成果発表



いろいろな学年で総合的な学習の時間に地域のことについて調べたり、地域の方々に教えていただきながら活動したりして学びを深めています。11月12日(水)には、5年生が鬼ノ城に生息する希少な植物やハッショウトンボ等について調べたことを2年生や講師でお世話になった萱原さんや風早さん、植田さんに発表をしました。また、16日(日)には、3年生の有志の子ども達が、1学期からハッカのことについて体験したり調べたりしたことを阿曽分館文化祭で発表しました。どちらの学年も、グループの友達と協力して調べたことを堂々と大きな声で伝えることができました。

